



お母さんが、最近のおばあちゃんの  
もの忘れや行動を心配して、



嫌がるおばあちゃんを連れて  
かかりつけ医の中村先生の診療所へ行きました。





おばあちゃんは長年、  
高血圧で中村先生の診察を受けています。



先生は、おばあちゃんを診察して、  
いくつかの質問をしました。





「おばあちゃんは、お歳は幾つになしましたか」  
「55歳じゃったかのう」



「おばあちゃん100から7を引くといくつかのう」





「先生、あんたは私をぼけとると思うて  
そんなことを聞くんかい。」



100引く7はえーと、93じゃろがな」





「その通り。じゃあ、おばあちゃん、  
93から7を引くといくつかのう」



「ええと、ええと、久美子さん、  
いくつになるんかのう」





おばあちゃんは、付き添っているお母さんを振り向いて助けを求めました。



「おばあちゃん、認知症の疑いがあるので、  
大学病院で脳のMRI検査や





血液の流れの検査など  
もっと詳しい検査をしましょう」



おばあちゃんは中村先生の紹介状を持って  
大学病院を受診しました。





おばあちゃんは、大学病院で診察を受け、アルツハイマー型の認知症と診断されました。





お母さんは、隣の町に住むおばあちゃんの娘、  
ヨシコおばちゃんに連絡して、





おばあちゃんのこれからの治療や  
介護のことを相談しました。





「おばあちゃん、精密検査の結果はどうだったん。  
専門の先生に診てもらおうたんじゃろ」





「アルツハイマー病という認知症と言われたの。  
なんでも脳の細胞が死んで、





脳が萎縮する病気だということなんです」





「お医者さんが言うには、ものを覚えることも、  
思い出すこともできなくなり、





時間や季節も分からなくなる、  
今、起こっていることも分からなくなつて、





自分がどうしたらいいかが  
分からなくなるらしいんです」



「それは大変ね。その病気は治るの」





「今、この病気を治す薬はないらしいの。  
でも、病気の症状を軽くしたり、





進行を遅らせる薬があるそうです」





「これからは、  
おばあちゃんの症状が少しでもよくなるように、





「おばあちゃんが不安がったり、  
寂しがったりしないで元気に暮らせるように、





みんなで支えていきましょう」